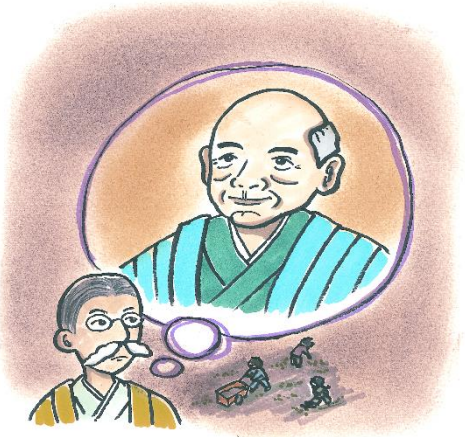


こども報徳訓

わたしの故郷豊頃、二宮尊徳先生の「報徳のおしえ」
を受継いだ孫の尊親先生の精神が根づいている町です。

私たちは、その「報徳のおしえ」や開拓の偉業に学び、
幸せな社会をつくり豊かな未来を築きます。

- 一 真心をもち、明るい人になります (至誠)
- 一 進んで働き 努力する人になります (勤労)
- 一 よく考え きまわりを守る人になります (分度)
- 一 ゆずり合い 助け合う人になります (推譲)



(平成二十三年 一月二十八日)

豊頃町教育委員会 制定)

(平成二十三年 二月一六日)

子ども教育委員会 決定)

「子ども報徳訓」を活かした子育てを！

（「子ども報徳訓」解説）

《前文について》

「子ども報徳訓」の前文に、本町は、不屈の精神で入植した先人や祖父二宮尊徳の「報徳のおしえ」を受継いだ二宮尊親が、移住民（興復社）を率いて開拓を進めた町であることと、その開拓精神や「報徳のおしえ」を大切に、受継ぎ学び、子ども達の将来や社会の発展のために活かす大切さが書かれています。

- ・「報徳のおしえ」とは、二宮尊徳の「報徳訓」や道歌などに書かれている内容全体を指したものです。
- ・「偉業」とは、困難な大仕事などを成し遂げたことを指します。草木がおおい茂る原野を、今から考えると緻密な粗末な農具を使って開墾するには、想像を絶する大変な労力がありました。

《本文について》

○真心をもち、明るい人になります（至誠） ～ 意味と解説

至誠とは、「まこと」「真心」「ひたむきに」などの意味をもち、「陰口なたなくまじめに生きること」です。尊徳は、「報徳四綱領」の中でも、この至誠を特に大切に、他の綱領の基になるものと考えました。

- ・「真心」とは、「嘘や偽りのない本当の心のこと」で、至誠の意味の中でも中心になるものです。自分に真心がないと、考えや行動などは他の人には理解されませんし、他の人の真心も感じることもできません。自分にとっても他の人にとっても大切なものです。

- ・「明るい」とは、「嘘や偽りのない」とこと関係があります。心の中になだかまりがあるより、「明るい」なることはできません。きちんと自分の心と向き合って、考え行動することが大切です。

○進んで働き、努力する人になります（勤労） ～ 意味と解説

勤労とは、「まじめに一生懸命に働くこと」です。尊徳は、自然の恵みや様々な徳に報いるためにも、勤労を大切にすることを説きました。そして、ただ働くのではなく、目標（志など）をもって計画的に働くことを大切にしました。

- ・「進んで働き」とは、自分の徳を活かし様々な徳に報いるために、目標（志など）をもち問題や課題を解決するよう、社会（学校・家庭）などで進んで学び働くことを意味しています。

- ・「努力する人」とは、些細なことも疎かにしないで、小さなものを少しずつ積み上げていくことの大切さを意味しています。

○よく考え、きまりを守る人になります（分度） ～ 意味と解説

分度とは、「はかり分けること」です。尊徳は、人にはそれぞれ決められた天分（性別・人種など）と努力や鍛えることで高まる天分があり、この二つの天分を十分に活かしながら、どのように生きていくかという度合いを決めることが大切だと説きました。

- ・「よく考え」とは、自分の天分（条件など）をよく知り、その中で、自分がしたいこと、伸ばしたいこと、やるべきことなどを決め、とつするところが達成できるかを考えることを意味しています。

- ・「きまりを守る人」とは、自分で決めた分度を実行することだけではなく、他の人との決まりや約束などを守るこの大切さを意味しています。

○ゆずり合い、助け合う人になります（推譲） ～ 意味と解説

推譲とは、「譲る」とことです。尊徳は、1年間の生活で余ったお金を、自分の将来や子孫のために蓄えること（自讓）と、他人や社会のために役立てること（他讓）の二つに分けて考えました。この考えは、お金だけではなく、人間相互のゆずり合いや自然への思いやりなどの広い意味も含まれています。

- ・「ゆずり合い」とは、生活すべての中で、他の人や自然をよく理解して、思いやりの心などをもち、ともに生きていくことの大切さを意味しています。

- ・「助け合う」とは、言葉の通りに助け合うことです。人間相互の助け合いだけでなく、自然から多くの恵みをもたらされて生きていることを忘れず、「感謝しながら自然の摂理などを踏まえ、よりよく働きかけて生活していくことも必要なこと」です。

《子ども報徳訓の精神》

「報徳訓」は、尊徳が子ども頃の不遇な境遇を克服するよう働き勉強したことが基になって作られたものです。教えられたことを大切にし、自分から進んで様々な勉強や活動（体験）をして、自分の生きていく力や糧などを学びとるよう、それぞれの成長に基づいて身に付けていくことが大切です。